

超短編⑭

「笑顔コレクター」(20020823)

「こつちを向いてください。ハイツ、チーズ」と言われて、知らない人に突然写真を撮られた経験のある人が最近増えている。

彼ら(ほとんどが男性である)は「笑顔コレクター」と呼ばれ、渋谷のスクランブル交差点の辺りや新宿歌舞伎町辺りで、道行く人々の笑顔を撮りまくっている。

若い女性や女子高校生の多くは、名前や住所を聞かれるわけでもないのに、軽く写真に納まってしまう。今のところ、特に実害があるわけでもないのに、社会問題になっているわけでもない。

また、彼らは女性をナンパすることが目的ではないので、非難されることも少ない。

しかし、今日からは、もし知らない男性にカメラを向けられたら、決して微笑んではならない。いや、きつと彼ら「笑顔コレクター」の素顔を知れば、これからは恐ろしくて笑顔で街を歩けなくなるかもしれない。

彼らが単に個人的な趣味で写真を撮っているのではないのなら、真の目的は何？

その疑問には後ほどたえるが、その前に彼らへの対応策をちょっとだけお教えしよう。

「笑顔コレクター」に声をかけられても無視する

基本的で当たり前のこと。これさえ徹底できれば、83%は防衛できる。あんまりしつこく付きまとうようなら、一言「私はあなたを知っています」と相手の目を見ずに言おう。

「笑顔コレクター」であれば、まず間違いなく逃げ出してしまう。

レンズに向かって微笑んではならない

「笑顔コレクター」はその名の通りあくまでも「笑顔」の収集家であるから、レンズに向かって微笑みさえしなければ、彼らは決してシャッターを切らない。

自分は笑っているつもりはなくても、傍から見ると笑っているようにしか見えないという顔の持ち主がいる。こういう顔の方は無理して怒った顔をしたり、「アッカンベー」なんかもしない方が無難である。そんなことをしても、やっぱり笑顔に見えてしまうという顔もあるからだ。

こういう顔の持ち主の場合はずかさず空を見上げたり、足元を見つめたりして、顔をレンズに向けなければ良い。簡単なことだ。

気付かないうちにシャッターを切られてしまったら。

困ったケースだが、最近はこのいうマナー無視、ルール無視の「笑顔コレクター」も多い。もし、そういう無法者に出くわしたら「あなたを肖像権の侵害で訴えます」と脅かそう。そして、彼らは皆、デジタルカメラで撮っているから、その場で写真を確認して、消去させることを忘れてはならない。

さて、この「笑顔コレクター」の正体である。

彼らは決して趣味で笑顔を撮影しているわけではない。ようするに笑顔で飯を食ってい

るのである。

私の知っている「笑顔コレクター」のK氏は、「マーケット（笑顔市場）はすでに1億円を超えているのではないか」と話している。

私はこのとき初めて笑顔にマーケットが存在していることを知り愕然とした。

このマーケットは決して表には出てこない。ネット上にしか存在していないのだ。

全国に1万人とも10万人とも言われる「笑顔コレクター」が24時間、ネットを通じて「笑顔」の売買をしていることを、まだほとんどの人は知らない。

今この時も、あなたの知らないところで、あなたの貴重な「笑顔」があなたの想像もつかない値段で売買されていることだって十分考えられるのだ。

私はK氏に質問した、「なぜ、笑顔なのですか？足とかお尻とかなら、そういう趣味の人がいるとは聞いているけれど」

K氏の回答「足やお尻のマーケットも、もちろんあります。けどやはり圧倒的に笑顔なのです。理由は体の一部分に比べて顔はずっと撮影がし易いのです。まあ顔も体の一部分には違いありませんが（笑）。道行く人に、あなたの足首を撮らせてくださいって言えばほとんど断られますが、顔は意外に断られることが少ないのです。ですけど、悲しい顔や怒った顔をしてくださいというのもだめです。やはり撮りやすいのは、なんとと言っても笑顔です」

もつともな答えだ。

言うまでもなく、あなたの笑顔はあなたの貴重な財産である。自分の財産は自分で守るしかない。

自分自身で自分の笑顔を守る自信がないのなら、軽々しく笑顔をふりまいて街を出歩かないことだ。

超短編シリーズはフィクションです。念のため